

## 第2章 丸亀市産業の特徴と課題

---

### 1. 丸亀市における地域経済の特徴

#### 【沿革】

本市は、歴史、文化、芸術、伝統と近代的産業が共存する地域です。16世紀末から丸亀城を中心とする城下町として繁栄し、丸亀うちわに代表される伝統産業と沿岸部に形成された塩田を活用した製塩業を中心に発展してきました。

第二次世界大戦後においても塩業、うちわ産業、紡績業など地元事業者による地域産業が丸亀市経済を支え、国内の市場拡大や固定相場制を生かしたアメリカへの輸出がこれを後押ししました。高度経済成長期にあたる1963年の工業統計書によると、丸亀市の製造業は、食品製造業、繊維工業、化学工業という「3本の柱」によって、経済が成り立っていました。これら3部門は、輸出縫製、塩業等によって支えられ、その製造品出荷額は、市全体の約50%に達する水準でした。

このような伝統産業あるいは軽工業を中心とした産業構造の大きな転機となったのは、1970年代です。1950年代後半から進められていた企業誘致により、丸亀市でも沿岸部で工業団地が形成されるようになりました。1970年代を通じて、沿岸部塩田の工業用地への転用が進展しました。1980年代以降は、主導産業が伝統的部門から誘致企業を中心とする大規模輸出産業へと変容し、グローバル経済と直結するようになっていきました。また、地元中小企業と誘致企業との階層構造も顕著になっていきました。

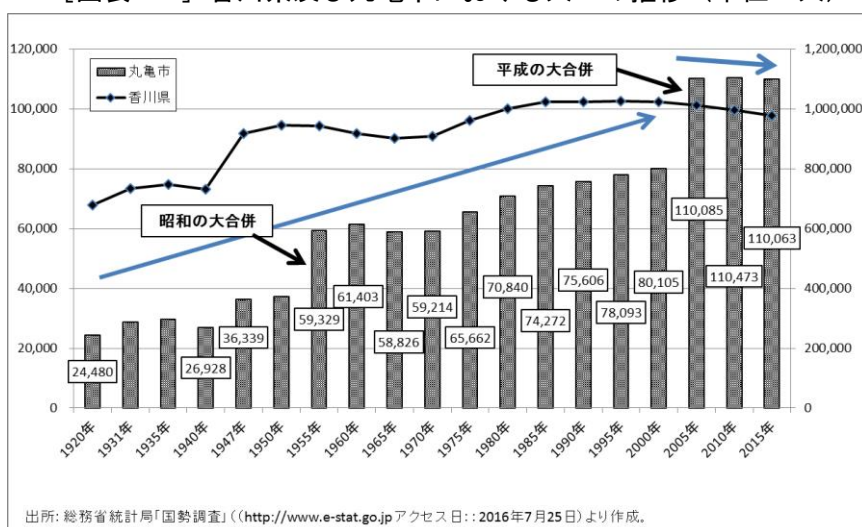
1990年代以降は、グローバル化の影響をより強く受けるようになるとともに、近年では少子高齢化などの課題が地域経済を覆うなかで、地域経済の構造は大きな変容を遂げています。

## 【人口】

### （人口の推移）

本市では2005年（平成17年）の合併により、人口は約11万人となり、それ以降はほぼ横ばいで推移しています。2015年の丸亀市人口ビジョンによると、将来の推計人口は、2040年に約9万4千人、2060年に約7万7千人とされており、他の多くの基礎自治体と同様に、人口減少が見込まれています。

〔図表 2-1〕 香川県及び丸亀市における人口の推移（単位：人）

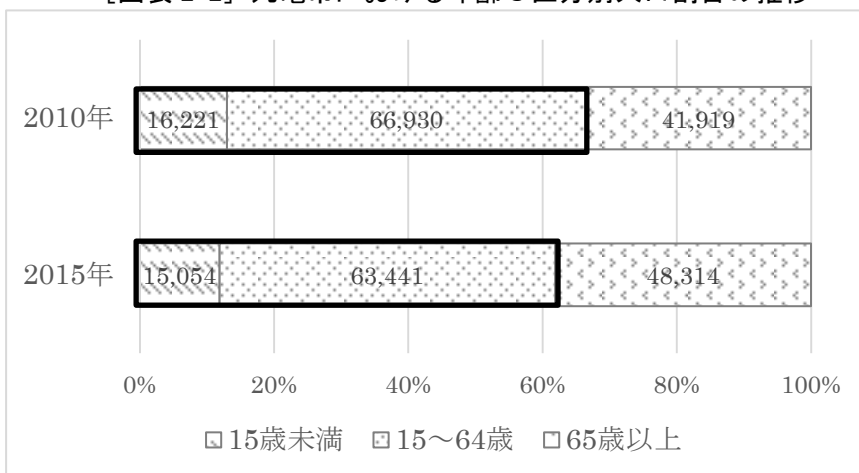


### （年齢3区分別人口割合）

国勢調査をもとに、本市の世代別人口構成（年齢3区分別）を見ると、2010年から2015年にかけて、15歳未満（年少人口）と15～64歳（生産年齢人口）が減少する一方で、65歳以上（老年人口）が増加する傾向にあります。

また、少子高齢化の影響もあり、若年層の割合も低下しています。大学進学や就職などにより「20～24歳」の年齢層で人口構成比率が最も低くなるということも指摘されています。

〔図表 2-2〕 丸亀市における年齢3区分別人口割合の推移



〔出所〕 総務省統計局「国勢調査」平成22年・27年より作成

## (島しょ部)

本市の島しょ部には、本島・牛島・広島・小手島・手島の5島が含まれますが、本島、広島、小手島では子どもの数が減少し、高齢化率が高まる傾向にあります。

[図表 2-3] 丸亀市5島の年齢3区分別人口と高齢化率の推移

(本島)					(牛島)				
年	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率	年	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率
2000年	73	346	349	45.4%	2000年	0	8	10	55.6%
2005年	54	260	291	48.1%	2005年	—	6	12	66.7%
2010年	43	178	271	55.1%	2010年	—	3	11	78.6%
2015年	22	133	237	60.5%	2015年	—	3	7	70.0%

(広島)					(小手島)				
年	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率	年	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率
2000年	8	191	254	56.1%	2000年	17	58	21	21.9%
2005年	4	122	225	64.1%	2005年	3	32	16	31.4%
2010年	0	84	197	70.1%	2010年	5	31	17	32.1%
2015年	1	39	186	82.3%	2015年	1	19	16	44.4%

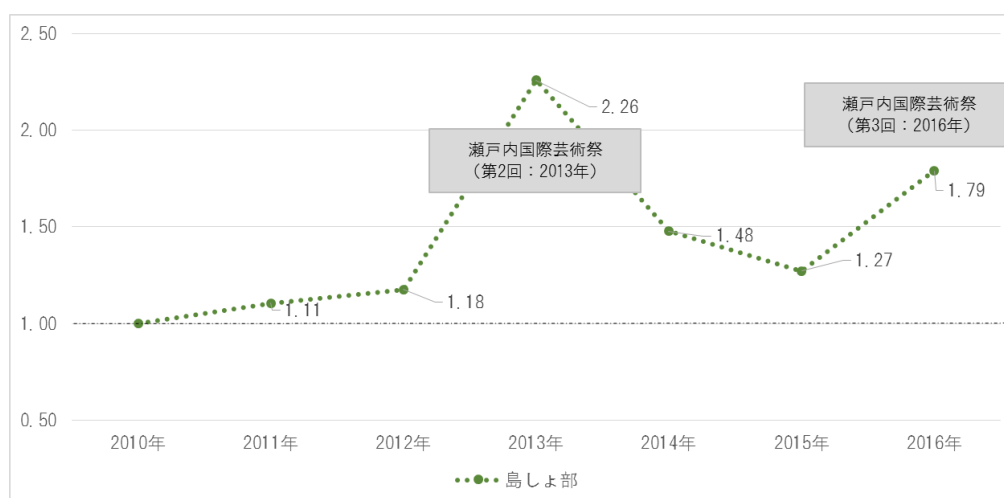
(手島)				
年	15歳未満	15～64歳	65歳以上	高齢化率
2000年	2	15	55	76.4%
2005年	—	7	47	87.0%
2010年	—	7	33	82.5%
2015年	—	3	27	90.0%

(注)①本島は、生ノ浜地区の人口が秘匿情報となっているため、実際の人口と合致しない。  
 ②「高齢化率」は、65歳以上の各島人口を各島の全人口で除し、百分率で示したものである。  
 (出所)総務省統計局「国勢調査」各年度版

島しょ部の活力を生み出す試みとして、観光産業への期待が高まっています。3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭(本島のみ)、HOT サンドルプロジェクト、本島マラソンなど、各種イベントによる集客もみられます。特に、瀬戸内国際芸術祭は大きな集客効果があります。

一方で、ホテルや旅館など宿泊施設が少ないことから、宿泊者数は伸びていないことが指摘されています。

[図表 2-4] 島しょ部におけるイベントと観光入込客数の関係



[出所] 丸亀市資料より作成

(注) 指数は2010年を「1」として、各年を算出。

## 【産業】

### (全産業)

丸亀市の産業は、2009年から2014年にかけて、事業所数は192ヶ所の減少、従業者数は1,798人の減少となっています。従業者数については、卸売業・小売業、建設業などで大きく減少していますが、教育・学習支援業や医療・福祉において、大幅に増加しています。

[図表 2-5] 丸亀市産業の民営事業所数、従業者数の増減

	2009年		2012年		2014年		2009年→2014年増減	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
A~R 全産業(S公務を除く)	4,699	43,461	4,450	40,410	4,507	41,663	-192	-1,798
A~B 農林、漁業	19	209	14	78	24	222	5	13
A 農業、林業	15	189	11	55	21	210	6	21
B 漁業	4	20	3	23	3	12	-1	-8
C 鉱業、採石業、砂利採取業	14	41	10	30	12	33	-2	-8
D 建設業	492	4,077	441	3,254	433	3,133	-59	-944
E 製造業	346	9,025	342	8,789	345	8,780	-1	-245
F 電気・ガス・熱供給・水道業	4	140	4	154	4	157	0	17
G 情報通信業	34	225	27	219	26	200	-8	-25
H 運輸業、郵便業	86	2,162	85	2,081	90	2,208	4	46
I 卸売業、小売業	1,309	9,357	1,207	8,533	1,207	8,678	-102	-679
J 金融業、保険業	100	1,149	98	1,078	97	1,047	-3	-102
K 不動産業、物品賃貸業	283	1,032	252	821	258	853	-25	-179
L 学術研究、専門・技術サービス業	190	968	179	918	187	1,069	-3	101
M 宿泊業、飲食サービス業	631	4,028	602	3,724	600	3,645	-31	-383
N 生活関連サービス業、娯楽業	429	1,910	420	1,877	408	1,780	-21	-130
O 教育、学習支援業	148	808	140	750	142	874	-6	66
P 医療、福祉	271	5,411	295	5,553	349	6,205	78	794
Q 複合サービス事業	39	302	37	288	34	263	-5	-39
R サービス業(他に分類されないもの)	304	2,617	297	2,263	291	2,516	-13	-101

[出所] 総務省統計局 経済センサスより作成

### (製造業)

丸亀市の製造業は、バブル経済期以降、全体として事業所数、従業者数の減少傾向が続いており、1990年には事業所数で350ヶ所、従業者数で約11,000人であったのに対して、2014年には168ヶ所、約7,000人と大幅に減少しています。従業者数については、2000年代後半にやや上昇するものの、事業所数と同様に全体として減少傾向にあり、2014年時点の従業者数は、1990年と比較すると63.0%の水準にあります。また、製造品出荷額等については、2005年から2014年のデータをみると、約1,990億円から約2,817億円へ大きく増加しています。これは、後述のように、輸送用機械器具製造業などの出荷額が大きく伸びていることが背景にあります。

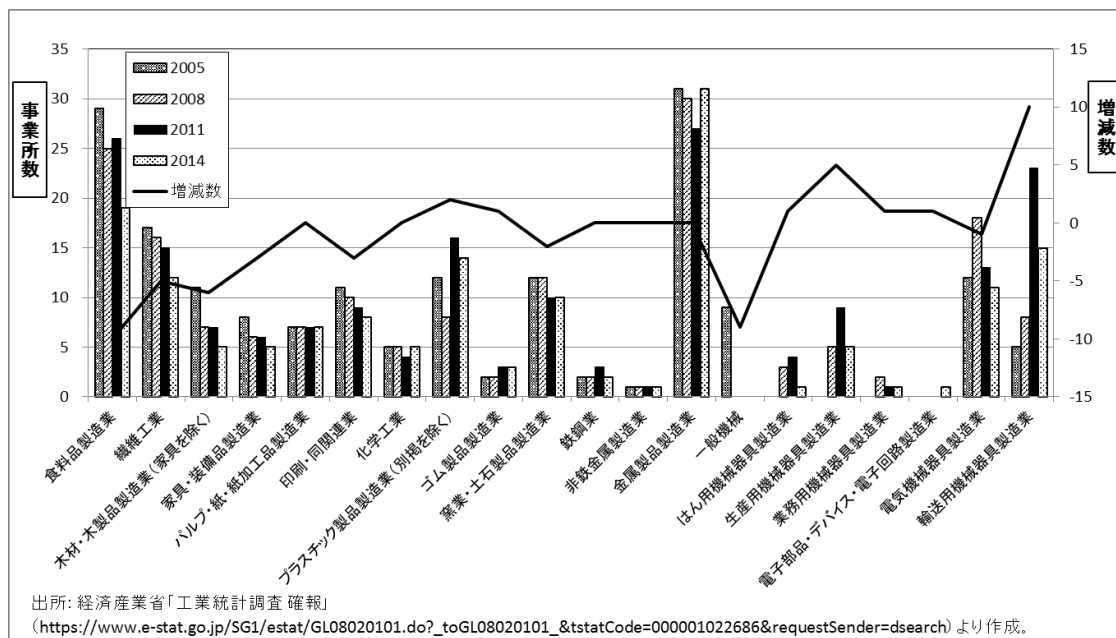
[図表 2-6] 丸亀市製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2014年
事業所数(所)	350	306	243	190	175	168
従業者数(人)	11,114	9,827	8,253	6,424	7,162	7,004
製造品出荷額等(万円)	-	-	-	19,895,662	24,224,302	28,174,285

[出所] 経済産業省工業統計調査確報より作成

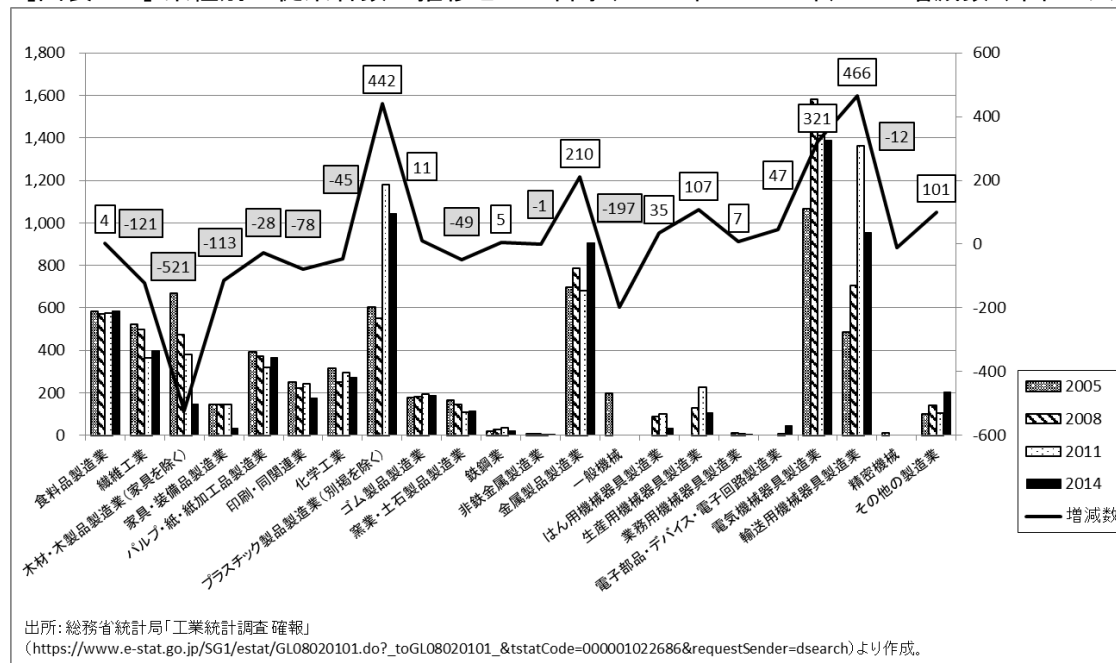
2005年と2014年を比較すると、事業所数全体では減少しており、食料品製造業や一般機械、木材・木製品製造業などでは、特に顕著となっています。一方、輸送用機械器具製造業や生産用機械器具製造業、プラスチック製品製造業など一部業種では事業所数が増加しています。

[図表 2-7] 業種別の事業所数の推移と10年間(2005年～2014年)での増減数(単位:所)



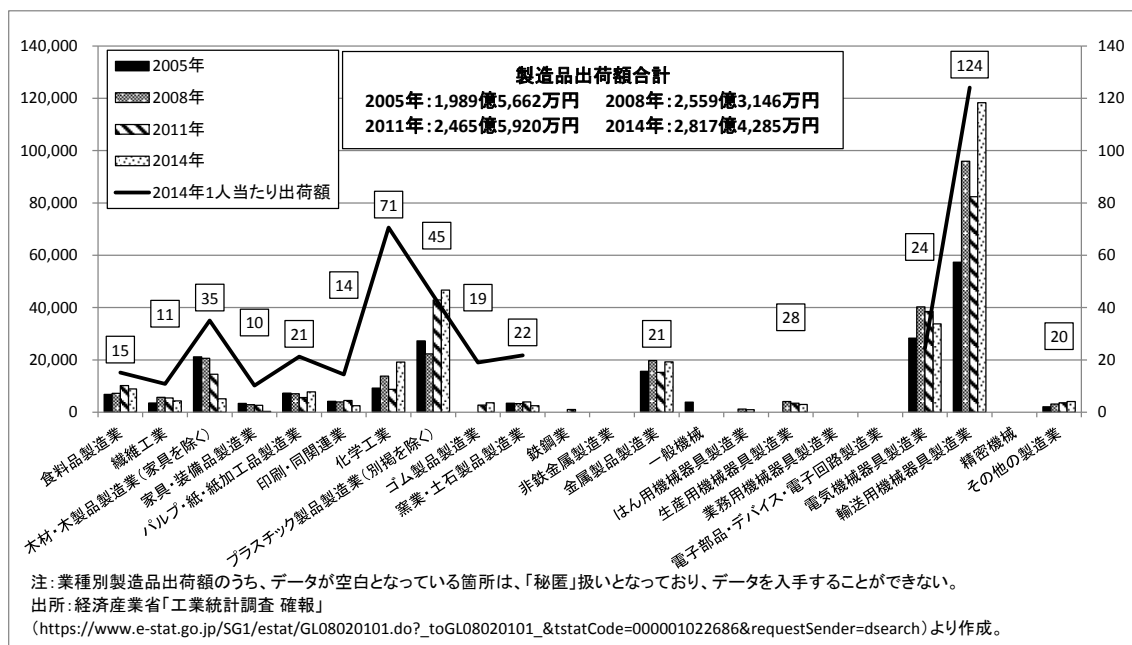
同様に2005年と2014年を比較すると、従業者数全体では増加しており、輸送用機械器具製造業やプラスチック製品製造業、電気機械器具製造業などでは、特に顕著な増加がみられます。一方で、繊維工業、木材・木製品製造業、家具・装備品製造業、一般機械の従業者数の減少は顕著です。これらは、地域の地場産業ともいえる業種です。

[図表 2-8] 業種別の従業者数の推移と10年間(2005年～2014年)での増減数(単位:人)



また、2005年から2014年の製造品出荷額等では、出荷額全体で約1,990億円から約2,817億円へと大きく増加しています。業種別では、輸送用機械器具製造業、化学工業、プラスチック製品が増加しています。

[図表 2-9] 業種別の製造品出荷額等の推移と主要業種別1人当たり製造品出荷額等(単位:百万円)



(商業)

丸亀市の商業(小売業)は、2002年から2014年にかけて、事業所数、従業者数、小売業売場面積で減少がみられる一方、年間商品販売額は増加しています。従来からの個人商店が減少する一方で、大規模小売店が販売額を押し上げたことが背景にあります。

[図表 2-10] 小売業の事業者、従業者数、年間商品販売額、売り場面積の増減

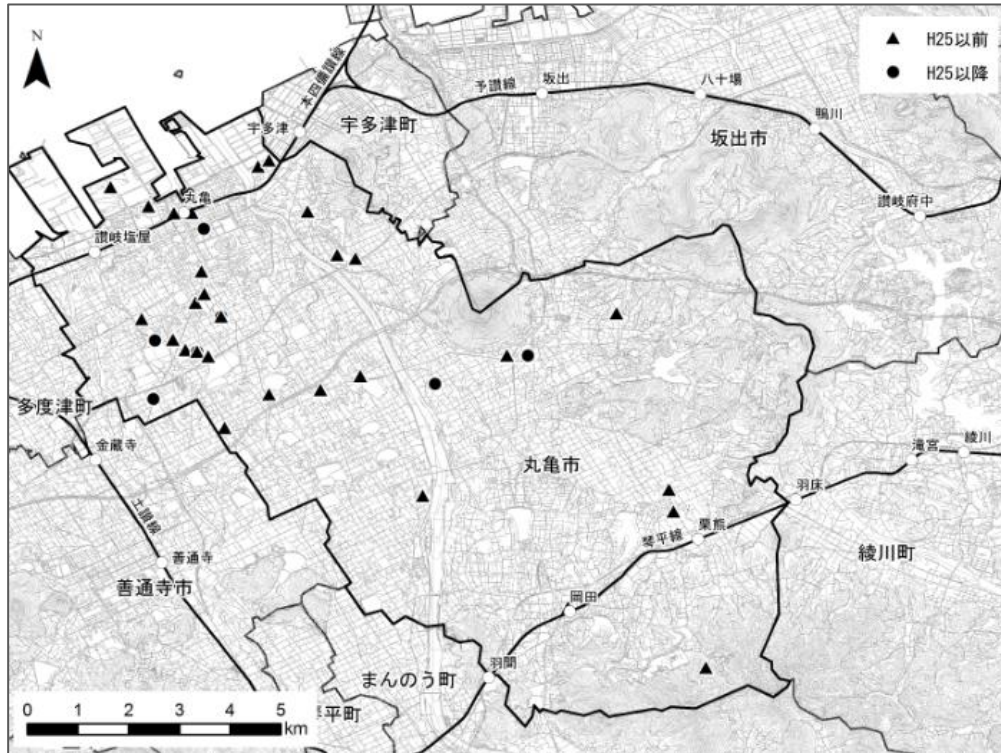
	2002年	2007年	2014年	2002年 →2014年増減
事業所数	1,219	972	719	-500
従業者数	6,464	6,336	5,591	-873
年間商品販売額(百万円)	110,994	109,202	122,777	11,783
小売業売場面積(m <sup>2</sup> )	176,466	157,769	174,353	-2,113

[出所] 経済産業省商業統計調査より作成

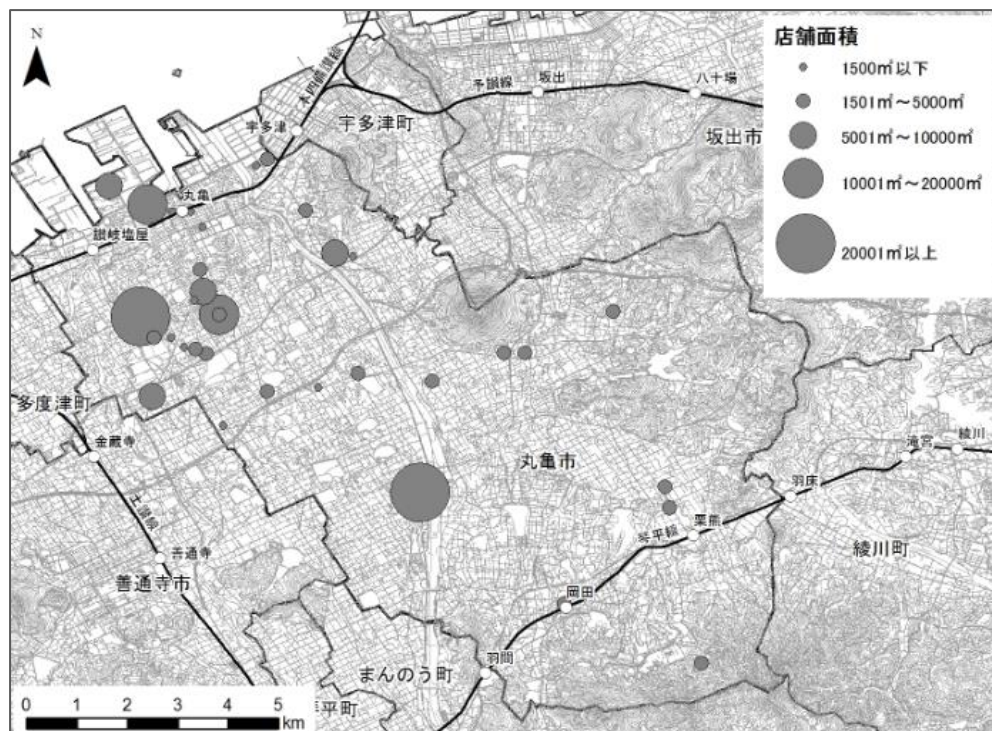
本市における大規模小売店の立地状況をみると、市内の中心部だけでなく、幹線道路沿いを中心に、郊外にも出店が進んでいます。前回の産業振興計画が策定された以降も、市内中心部とその周辺部に新規で大規模小売店が開店しています。また、大規模小売店の店舗面積をみると、市内中心部に店舗面積が10,000 m<sup>2</sup>を超える店舗が集中しているものの、郊外にも、幹線道路沿いに店舗面積の大きい店舗が立地しています。

こうしたことから市民の利便性は向上していますが、一方では、従来の個人商店の経営環境を圧迫しているともいえます。

[図表 2-11] 丸亀市の大規模小売店の立地状況と開設時期



[図表 2-12] 丸亀市の大規模小売店の店舗面積



(出所) 丸亀市提供資料より作成

(注) 店舗データは 2017 年 8 月時点のデータをもとに、最新の所在地を HP 等で検索してプロットした

(サービス業)

高齢化の進展に伴い、医療・福祉分野はサービス業のなかで、従業者数の占める割合が非常に多く、地域内においてその重要性が高まっている産業です。平成26年経済センサスによると、医療・福祉分野は、本市全産業に占める割合として、事業所数で7.7%、従業者数で14.9%となっており、多くの雇用を生んでいることがわかります。住民生活の場において、なくてはならない人々の生活に密着した産業といえます。

その他、サービス業の中では宿泊業・飲食サービス業も事業所数、従業者数ともに多く、地域の雇用を支える産業となっています。

[図表 2-13] 丸亀市における産業別の民営事業所数・従業者数及び全産業に占める割合

産業小分類及び従業者規模	事業所数	従業者数	全産業に占める事業所数の割合	全産業に占める従業者数の割合
A～R 全産業(S公務を除く)	4,507	41,663	100.0%	100.0%
一次産業(農業・林業・漁業)	24	222	0.5%	0.5%
A 農業, 林業	21	210	0.5%	0.5%
B 漁業	3	12	0.1%	0.0%
二次産業(鉱業・建設業・製造業等)	790	11,946	17.5%	28.7%
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	12	33	0.3%	0.1%
D 建設業	433	3,133	9.6%	7.5%
E 製造業	345	8,780	7.7%	21.1%
三次産業	3,693	29,495	81.9%	70.8%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	4	157	0.1%	0.4%
G 情報通信業	26	200	0.6%	0.5%
H 運輸業, 郵便業	90	2,208	2.0%	5.3%
I 卸売業, 小売業	1,207	8,678	26.8%	20.8%
J 金融業, 保険業	97	1,047	2.2%	2.5%
K 不動産業, 物品賃貸業	258	853	5.7%	2.0%
L 学術研究, 専門・技術サービス業	187	1,069	4.1%	2.6%
M 宿泊業, 飲食サービス業	600	3,645	13.3%	8.7%
N 生活関連サービス業, 娯楽業	408	1,780	9.1%	4.3%
O 教育, 学習支援業	142	874	3.2%	2.1%
P 医療, 福祉	349	6,205	7.7%	14.9%
Q 複合サービス事業	34	263	0.8%	0.6%
R サービス業(他に分類されないもの)	291	2,516	6.5%	6.0%

[注] 一次～三次産業は、日本標準産業分類(総務省)に従い分類した

[出所] 総務省統計局 経済センサス 平成26年基礎調査



(観光)

本市を訪問する観光客数は、近年増加する傾向にあり、2007年から2014年にかけて、約180万人から約240万人へと急増しています。この背景には、丸亀城とレオマワールドを訪問する観光客の数が増えたことがあります。また、市内には、歴史・文化、美術、自然、食など様々な観光資源が点在しています。

[図表 2-14] 丸亀市における観光客数と主な観光資源 (単位: 千人)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
観光客数 (千人)	1,814	1,684	1,782	1,789	1,913	1,985	2,423	2,417

[出所] 丸亀市統計書 平成 27 年版より作成

	名称	所在地域		名称	所在地域
歴史・文化	丸亀城	丸亀	自然	飯野山	丸亀・飯山
	中津万象園	丸亀		綾歌三山	綾歌
	太助灯籠	丸亀		瀬戸内海	島しょ部
	金比羅湊・金比羅街道	丸亀		塩飽諸島	島しょ部
	丸亀うちわ	丸亀		まるがめ婆娑羅まつり	丸亀
	笠島重要伝統的建造物群	島しょ部		丸亀城桜まつり	丸亀
	塩飽勤番所	島しょ部		丸亀城お城まつり	丸亀
美術館等	猪熊弦一郎現代美術館	丸亀	イベント・行事	香川丸亀国際ハーフマラソン大会	丸亀
	丸亀美術館	丸亀		瀬戸内国際芸術祭	島しょ部
	丸亀平井美術館	丸亀		HOTサンダルプロジェクト	島しょ部
	うちの港ミュージアム	丸亀		お大師まつり	島しょ部
	NEWレオマワールド	綾歌		正覚院夏まつり	島しょ部
食	骨付島			塩飽本島マイペースマラソン	島しょ部
	さめきうどん			桃喰うまつり	飯山
	おいり			坂本念仏踊り	飯山
	しょうゆ豆			まるがめどろんこまつり	飯山
	香川本鷹			岡田おどり	綾歌
	どげう汁			あやうたふるさとまつり	綾歌

[注] 食に関しては市内で広く流通しているものが多いと考え、図表では所在地域を特定することはしなかった。

[出所] 丸亀市ホームページより作成

### (中小企業と大企業)

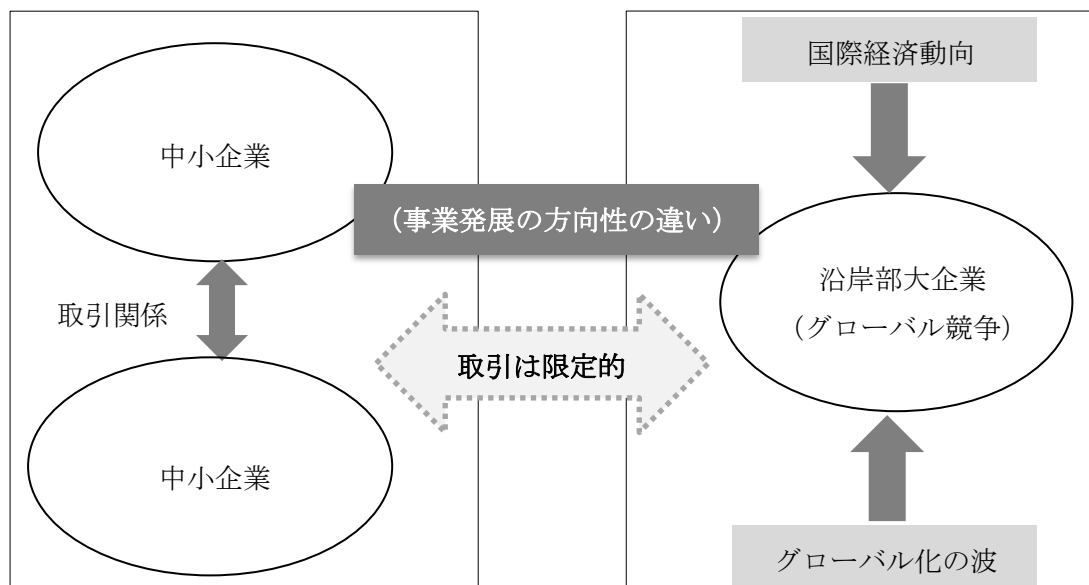
丸亀市の製造業を分析すると、輸出を含めたグローバルな視点から国際分業を進める大企業と、従来から地域に存在する食品製造業や伝統産業の担い手である地元の中小企業等との間で、業績や事業発展の方向性に違いがみられます。

大企業では、グローバルな規模での事業活動を展開しており、地元企業との直接的な取引は少ないとされます。こうした企業は、これまでのところ売上高を伸ばし、雇用面、税収面で地域に貢献していますが、景気や為替の変動、激しいグローバル競争にさらされる状況にあります。

一方、中小企業等では、機械設備は他県の業者に発注しているものの、原材料は地元から調達している企業が食品製造業などにおいてみられます。新鮮な食材の購入といった面で、地元との結びつきが強いと推測されます。

グローバルな視点で、事業やサプライチェーンを構築し、国際競争を戦う大企業に対して、地元との結び付きを強める事業展開を志向する中小企業等との間には、事業発展の方向性に大きな違いがみられます。

[図表 2-15] 丸亀市の企業における事業発展の方向性の違い (概念図)



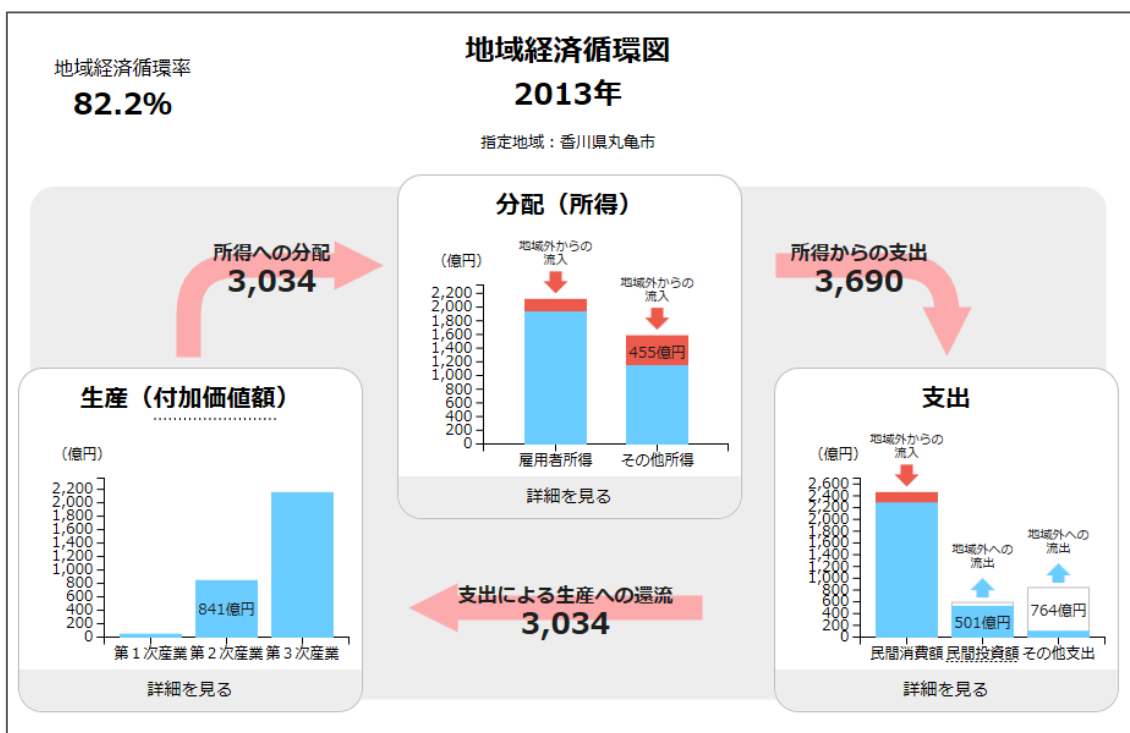
(地域経済循環率)

近年、地域経済の活性化の視点から、「地域経済循環率」という指標が注目されています。これは、地域内企業の経済活動を通じて生産された「付加価値」が、どれくらい労働者や企業の「所得」として分配され、最終的にそうした分配がどれくらい地域での消費や投資に「支出」されたかを分析するものです。

香川県全体ではこの数値が 96.4%、高松市が 112.4%である一方、本市は 82.2%となっています。この数値が 100 を下回ると、支出の域外流出が多く、域内への還流が少ないことを示しています。本市は、この地域経済循環率が香川県や高松市と比べて、低い状況にあることが課題です。

[図表 2-16] 丸亀市と香川県、高松市との地域経済循環率の比較

	地域経済循環率
丸亀市	82.2%
香川県	96.4%
高松市	112.4%



[注] データは 2013 年時点のもの

[出所] RESAS 地域経済循環マップ

## 2. 丸亀市における産業の主な課題

本市を取り巻く環境の変化や地域経済の構造の変化により、産業分野においては、以下のような課題が生じています。

課題(1)	多くの産業分野における事業所数や従業者数の減少
-------	-------------------------

本市全体では、2009年から2014年にかけて、全産業分野として事業所数で192ヶ所、従業者数で1,798人の減少がみられます。卸・小売業や建設業では、特に減少幅が大きくなっています。製造業も同様に減少がみられますが、卸・小売業や建設業と比べると減少幅は小さい状況にあります。

一方、医療・福祉は、急速な高齢化にともない、事業所数、従業者数ともに大きく増加しており、地域の経済と雇用を支える産業として、重要になってきています。

また、地域別の動向について、医療・福祉は、旧丸亀市、綾歌町、飯山町いずれの地域においても増加となっています。製造業においては、綾歌町で事業所数が増加する一方、飯山町では事業所数、従業者数ともに減少しています。

[図表 2-17] 丸亀市における地域別民営事業所数及び従業者数（単位：人）

2009年								
	丸亀市		旧丸亀市		綾歌町		飯山町	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	4,699	43,461	3,855	36,857	358	2,693	486	3,911
建設業	492	4,077	349	3,335	52	262	91	480
製造業	346	9,025	262	7,511	29	542	55	972
卸・小売業	1,309	9,357	1,080	7,928	114	668	115	761
宿泊業、飲食サービス業	631	4,028	569	3,618	25	174	37	236
医療・福祉	271	5,411	211	4,561	20	190	40	660
2014年								
	丸亀市		旧丸亀市		綾歌町		飯山町	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	4,507	41,663	3,697	35,340	356	2,385	454	3,938
建設業	433	3,133	304	2,465	49	220	80	448
製造業	345	8,780	259	7,395	33	455	53	930
卸・小売業	1,207	8,678	1,004	7,313	97	600	106	765
宿泊業、飲食サービス業	604	3,687	558	3,450	20	93	26	144
医療・福祉	349	6,205	268	5,180	32	298	49	727
増減数								
	丸亀市		旧丸亀市		綾歌町		飯山町	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総数	-192	-1,798	-158	-1,517	-2	-308	-32	27
建設業	-59	-944	-45	-870	-3	-42	-11	-32
製造業	-1	-245	-3	-116	4	-87	-2	-42
卸・小売業	-102	-679	-76	-615	-17	-68	-9	4
宿泊業、飲食サービス業	-27	-341	-11	-168	-5	-81	-11	-92
医療・福祉	78	794	57	619	12	108	9	67

[出所] 総務省統計局「経済センサス基礎調査」平成21年、平成26年より作成

課 題 ( 2 )

中心市街地の空洞化と新規創業の低迷

本市の中心市街地には、富屋町商店街、通町商店街、浜町商店街、本町商店街の 4 つの商店街で構成される丸亀市中央商店街があります。JR 丸亀駅に近接し、いわゆる「まちな顔」となる商店街です。近年では、市民団体等の活動により、新規店舗も増えていますが、依然として空き店舗が目立ちます。

周辺に大規模小売店の出店が進んだことで顧客が流れ、中心商店街の吸引力は低下している状況にあります。

[図表 2-18] 空き店舗率の推移

調査年 区分	平成19年		平成21年		平成23年		平成25年		平成27年		平成29年	
	空き店舗	店舗数	空き店舗	店舗数	空き店舗	店舗数	空き店舗	店舗数	空き店舗	店舗数	空き店舗	店舗数
富屋町	22	57	30	58	33	57	35	56	20	40	19	38
通町	32	79	34	80	33	79	33	78	33	74	24	68
浜町	10	40	10	38	9	34	8	34	4	34	3	34
本町	16	41	14	38	19	37	16	32	15	31	15	30
合 計	80	217	88	214	94	207	92	200	72	179	61	170
空き 店舗率	36.9%		41.1%		45.4%		46.0%		40.2%		35.9%	

[出所] 丸亀商工会議所「商店街等の空き店舗状況」より作成

また、本市では産業全体として、廃業率が開業率を上回る状況となっています。平成 26 年経済センサスでは、全産業平均で開業率が 2.0%、廃業率が 6.2%となっています。宿泊・飲食サービス業などでは、相対的に開業率が高い状況にありますが、同時に廃業率も高く、事業者の入れ替わりが激しい状況となっています。

[図表 2-19] 丸亀市における産業別の開業率・廃業率の状況

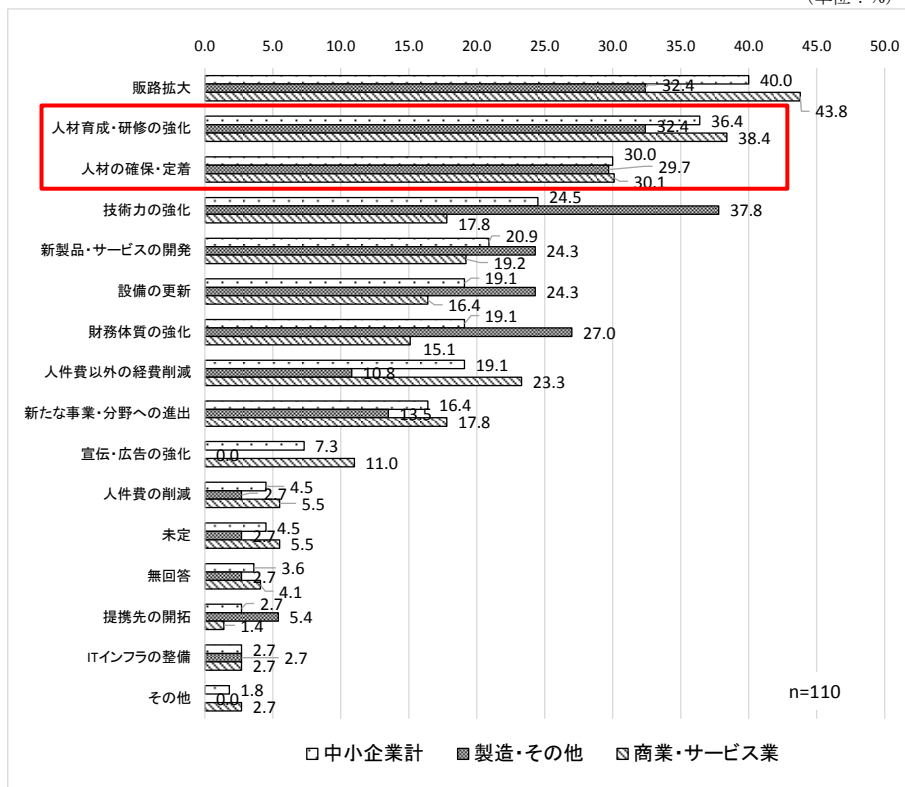
産業大分類	開業率	廃業率	ネット開業率 (開業率－廃業率)
A～R 全産業(S公務を除く)	2.0%	6.2%	-4.3%
A～B 農林漁業	-	2.9%	-
C 鉱業、採石業、砂利採取業	-	8.0%	-
D 建設業	0.7%	5.9%	-5.2%
E 製造業	0.9%	4.9%	-4.0%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-
G 情報通信業	1.5%	10.8%	-9.3%
H 運輸業、郵便業	0.9%	4.8%	-3.9%
I 卸売業、小売業	1.5%	5.8%	-4.3%
J 金融業、保険業	1.6%	6.0%	-4.3%
K 不動産業、物品賃貸業	0.3%	7.0%	-6.7%
L 学術研究、専門・技術サービス業	1.6%	5.6%	-4.0%
M 宿泊業、飲食サービス業	4.7%	9.8%	-5.1%
N 生活関連サービス業、娯楽業	3.0%	5.9%	-2.8%
O 教育、学習支援業	2.6%	9.5%	-6.9%
P 医療、福祉	3.3%	3.4%	-0.1%
Q 複合サービス事業	-	2.2%	-
R サービス業(他に分類されないもの)	0.8%	5.4%	-4.6%

[出所] 総務省統計局 経済センサス(平成 26 年活動調査)より作成

本市は、あらゆる産業において、高齢化、後継者問題による廃業、県外企業への吸収合併などにより、総事業所数が減少するなど、厳しい状況にあります。こうした状況は、中小企業や伝統産業などでは、より深刻な状況にあります。

本市が2014年1月に実施した企業ニーズ調査においても、今後の経営戦略として、販路拡大に次いで、人材育成や人材の確保・定着を挙げる企業が多い状況です。

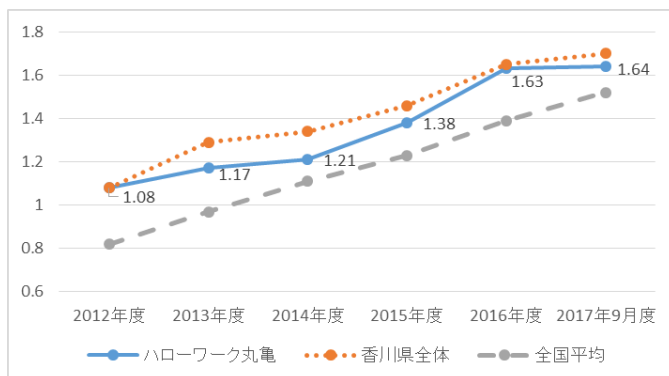
【図表 2-20】 市内中小企業の今後の経営戦略



【出所】 丸亀市企業ニーズ調査（平成 26 年 1 月）より作成

また、近年の本市における有効求人倍率をみると、全国平均を上回る状況が続いています。特に、建設や管理、サービスの職業では求人倍率が高く、人材確保が難しい状況です。

【図表 2-21】 本市における有効求人倍率の推移（フルタイム）



(丸亀市：上位 5 職業)

職業	有効求人倍率
建設・採掘の職業	12.64
管理的職業	4.20
サービスの職業	3.40
保安の職業	3.29
輸送・機械運転の職業	2.25

【出所】 香川労働局労働市場情報（平成 29 年 9 月分）より作成

本市はいわゆる観光都市ではありませんが、今後の人口減少を見据えて、交流人口を増加させる必要があります。

本市の観光における課題は、観光客の丸亀市内での滞在時間が短く、各観光拠点の周遊を促進するルート設定や観光資源が持つ魅力・価値を十分にPRできていない点にあります。現在、本市では、Facebookやマルカメラといったソーシャルメディアを活用したPRに力を入れています。今後、こうしたPR方法をさらに強化していく必要があります。

周遊ルートの設定という点では、本市だけでなく周辺自治体や四国全体とも連携しながら、広域でのルート設定やPRにも取り組む必要があります。

また、島しょ部については、少子高齢化の進展が顕著であり、観光による活性化が必要です。島内での各種イベントの開催により、交流人口を増やす試みがなされていますが、宿泊施設は限られています。瀬戸内国際芸術祭が開催される本島では、2013年度（第2回）に約9万5千人、2016年度（第3回）も約8万人の観光入込客数がありましたが、島内の宿泊施設は限られているため、日帰り客がほとんどと推測されます。

また、「島内でお金を使う場所がない」ということも指摘されており、観光客増加を目標とする施策も重要ですが、同時に、どのように消費につなげるかが、産業振興上の課題となっています。

[図表 2-22] 島しょ部における宿泊施設数

	宿泊施設数 (民宿・旅館など)
本島	5
広島	2
手島	1
牛島	0
小手島	0

[出所] 丸亀市提供資料より作成